

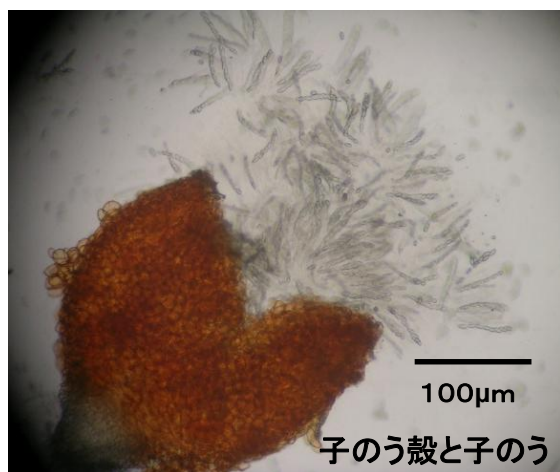
平成21年度病害虫発生予報第5号(8月予報)

今月のトピックス

<http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/cateview.jsp?cateid=119>

立枯病（ピーマン・トウガラシ）

学名 : *Nectria haematococca*



生態と被害

主として根や地際部を侵し、時には枝にも発生する。地際部の表皮はひび割れ、表皮を削ると木質部には黒変が認められる。地上部ははじめ一部の葉が青いまま萎れる。症状が進むにつれて株が萎凋し、枯死に至る場合もある。地際部や地表に露出した根の表面には分生子や小粒の赤色の子のう殻が形成される。子のう殻内には棍棒状の子のうが多数形成され、子のう内に8個の子のう胞子が存在する。本菌はファレノプシスにも寄生する。土壌中の植物残渣等で長期生存する。土壌伝染によって発病し、罹病部に形成された分生子や子のう胞子の飛散によって拡大する。